

行書のQ&A その3

山梨大学教授

宮澤 みやざわ

正明 まさあき

前号に続いて、「楷書と比べて行書はどこがどう違うのか。また、行書の書き方がよくわからないのだが。」の問いにお答えします。

これまで、行書の「点画の連続・変化」について取り上げてきました。今回は、行書の「点画の省略」について取り上げます。

行書の「点画の連続・変化」は、文字（楷書）を速書きしたときに自然発生的に生じる筆記具の平面運動や近道、点画の短縮といった筆使いの変化であったのに対して、「点画の省略」は、速く書くことを目的に、意図的に楷書の骨組みの一部を省いたり、異なる骨格に変えたりする、いわば人為的方法といえます。

したがって、「点画の連続・変化」は速書きによって自然に生じる特徴ですから、ルールはあるものの、それほど抵抗を感じることなくその特徴を習得できますが、「点画の省略」は人為的な骨組み（字体）の変更ですから、知識として理解する必要があります。

次に、点画の省略方法と字例をいくつか挙げましょう。

点画の省略
ア点の省略

木偏、雨冠、れっか、などに省略が見られます。

林雲馬無

イ画の省略（形）

画の省略形は多種多様です。それぞれの省略形を知識として理解することが大切です。

記紅初門
起題違路

「点画の省略」の学習方法と課題

行書の学習で「点画の連続・変化」はまたしも、「点画

の省略」まで中学生に指導する必要があるだろうか、といった意見があります。

わたしたちの文字環境は、すでに手書き文字は主流ではなくなっています。雑誌・書籍・新聞などの活字、パソコン・携帯電話のディスプレイ上のデジタル文字がいかに身の回りに氾濫しているかを考えれば、高度な行書学習の必要性に「？」が打たれるのも当然といえは当然です。ましてや、教科内容が増加する中学生に省略法を知識として学習させることの負担を思えばなおさらでしょう。

大学生が「点画の省略」の方法と字例を一か月間（毎週一回の授業）学習し、その後、同一の文章を楷書と行書で書き分け、それぞれの所要時間を計測する実験を行ったところ、どの学生も行書のほうが時間がかかるという結果が出ました。行書で書く過程で、覚えてたの省略法の判断に躊躇し手間取ったことが遅くなった直接の原因でした。確かに、時間的な結果だけを見ると、点画の省略法を学習しても速書きには効果が現れないということになります。一か月に及ぶ行書学習とこの結果に対して学生の反応は否定的、悲観的なものではありませんでした。学生の声を拾ってみると、

「行書の省略の学習をしたのに、楷書より遅くなっちゃったけれど、これから役立つと思っ」
「また省略のしかたがつかって覚えなくて、書くとき迷って遅くなった。でも、行書を学んで、なんだか嬉しい。もっと早

くしつかり学んでおきたかった。」

「楷書しか書けないのは情けない。まだ速く書けないが、省略した行書で書くと、何となく大人になった気がする。」などでした。

学習直後にそうそう簡単に行書が使える速く書けるわけではありません。まずは、省略の知識を得るだけでも十分です。「点画の連続・変化」による筆記具の平面運動・近道、点画の短縮などの速書きリズムの中で、点画の省略法を意識して使い慣れれば、楷書より必ず速く書くことができるはずです。

中学生は、友達との関係を強固にするための手段として同一書風の文字を共有し合つという、いわば書風の没我的傾向を強く見せる反面、自我の形成とともに生じる個性的文字を書きたい、人より整った字形を書きたい、大人っぽいつけ文字（行書）を書いてみたいとの自己顕示欲をもあわせ持ちます。中学校書写の行書学習は、日常の筆写に役立つ速書きの書写力を目ざしていますが、多感な時期にある生徒の文字観、文字感覚を把握したうえで、将来に役立つ書写力向上の指導方法を工夫したいものです。先に挙げた省略のルールや字例程度なら、中学生にも、それほど負担にはならないと思います。そして、教師は、日ごろの板書などで既習の行書の省略形を書いて見せることです。目習いととも、その省略形は生徒のノートにもきつと反映されるはずです。